



## 府立箕面東高等学校

<p>(20)現在選んでいる選択科目について（満足度） E S 生徒…肯定的 60.0%</p> <p>(29)ワールド科目全体について（力や個性の伸長） C S 生徒…肯定的 56.8%</p> <p>(29)エンパワ選択科目について（力や個性の伸長） E S 生徒…肯定的 47.3%</p> <p>(35)自分の後輩や将来の子供に対して箕面東に行かせたい。保護者 40 知人の子供に勧めたい。 C S 生徒…肯定的 53.7% E S 生徒…肯定的 48.9% C S 保護者…肯定的 62.8% E S 保護者…肯定的 71.4%</p> <p>→希望通りに入学し、友人関係は良好であるが、学校生活はあまり楽しくない。 →E S の選択科目に対する肯定的な意見が低い。 →箕面東を後輩や子供、知人に勧めたいの項目では、保護者、特にE S 保護者の肯定的意見は比較的高いが、生徒の肯定的意見の割合が低い。前述の「学校が楽しい」「選択科目の満足度」と、この数値を上げていくことがこれからの課題である。</p> <p>[生徒指導]</p> <table border="0"> <tr> <td>肯定的回</td> <td>C S 生徒*61.1%</td> <td>E S 生徒*69.5%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C S 保護者*73.7%</td> <td>E S 保護者*84.8%</td> </tr> </table> <p>(32)頭髪指導 C S 生徒…肯定的55.1% E S 生徒…肯定的43.6%</p> <p>(33)ピアス・化粧 C S 生徒…肯定的54.7% E S 生徒…肯定的47.6%</p> <p>(34)遅刻指導 C S 生徒…肯定的73.6% E S 生徒…肯定的59.0%</p> <p>(6)信頼できる先生 C S 生徒…肯定的63.8% E S 生徒…肯定的58.0%</p> <p>(7)先生とのコミュニケーション C S 生徒…肯定的68.2% E S 生徒…肯定的62.0%</p> <p>→生徒指導に関しては、E S 保護者の肯定的意見の割合が高い。 →各、具体的項目の生徒の肯定的意見の割合が低いのは、学校として厳しく迫っている表れであり、その点がE S 保護者の評価を高くしているのではない。</p> <p>[学習指導等]</p> <p>(9)わかりやすい授業 C S 生徒…肯定的64.2% E S 生徒…肯定的64.2% C S 保護者…肯定的53.2% E S 保護者…64.9%</p> <p>(10)～(19) 学習内容の理解 C S 生徒…肯定的56.3%(数学)～85.0%(体育) E S 生徒…肯定的47.9%(S T 理科)～79.9%(S T 国語)</p> <p>(13)問題解決的な学習指導 教員…肯定的70.0%(昨年37.7%) 教員 14, 15 参加体験型学習、グループ学習など学習形態の工夫改善 教員…肯定的89.2%(昨年72.3%)</p> <p>→「わかりやすい授業」について、生徒、保護者ともあまり高くなく、もっと教員の工夫が求められる。 →「学習内容の理解」では、E S ではS T 国語の値が高く、モジュール授業の成果が出ている。 →「参加体験型やグループ学習等の工夫改善」の教師の意識は昨年より大きく伸びており、本年度、パッケージ研修でアクティブラーニングに取り組んだ成果と考えられる。 →「読書指導」の値は低く、今後の取り組みの課題である。</p> <p>[進路指導] 肯定的回答 C S 生徒*74.1% E S 生徒*69.5% C S 保護者*57.4% E S 保護者*68.6% 教員*90.0%</p> <p>(28)キャリアガイダンス C S 生徒…肯定的75.7% E S 生徒…肯定的68.6% 教員…肯定的86.7%(教員26 系統的なキャリア教育)</p> <p>→進路指導に関する項目の平均については、教員の肯定的意見の割合の高さに対して、保護者の値の低さが感じられる。生徒に対する指導や伝えている情報が、保護者まで伝わっていないのではない。通信やホームページ、メールマガジン等で、生徒の取り組みをもっと保護者に発信し、アピールすることが必要であろう。 →キャリアガイダンスについてC S に比べてE S の値が高くないのは、まだ、E S ではまだ進路決定がなされていないためと考えるのが良いのではない。</p>	肯定的回	C S 生徒*61.1%	E S 生徒*69.5%		C S 保護者*73.7%	E S 保護者*84.8%	<p>○本年度の重点目標と取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校に根付かせる生徒指導」については、生徒と教員の心が通じ合わないとコミュニケーションやしつけは通じない。家庭環境の状況など、根っこの部分を理解することが必要である。これまでコミュニケーションの大切さを家庭や学校は疎かにしてきたように思う。家庭と学校の相互理解が非常に重要であると考え。</li> <li>・エンパワメントスクールの社会に対する役割は、社会人としての基礎力と規範性、社会への帰属意識を身につけさせることにあると考える。いわゆる「地頭(じあたま)」の良い学生を育てるためには朝の10分学習とエンパワメントタイムの充実が不可欠である。</li> </ul> <p>第2回(11/7)</p> <p>○エンパワメントスクール1期生状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年独自の球技大会、体育祭、文化祭での学年行事などを実施し、担任団の意気込みを強く感じ頼もしい。運営を生徒主体にしているところもいい。今後、全校レベルでの取り組みとなることを期待する。</li> <li>・一部エンパワメントスクールのコンセプトを十分理解せずに入学してきた生徒に関しては、中学校側も責任を感じている。今後双方で協力し、情報発信を行っていきたい。</li> </ul> <p>○生徒支援委員会からの教育相談活動の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校側から見て、外部との連携がしっかり取れており、生徒支援体制は充実している。</li> </ul> <p>○本年度学校経営計画、取組みの進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート結果の活用と授業見学直後の面談などの取組みが、非常にきめ細かく行われており、教師の教育活動へのモチベーションの向上に繋がっているのではない。</li> <li>・キャリア教育での新たな取り組みである「大阪府中小企業家同友会」との連携による「社長さんと話そう」は、期待する。今の大学生を見ても社会的能力が非常に低いのが現状。高校でのキャリア教育の見直しが必要ではないかと考えている。</li> <li>・大阪府教育センターの「パッケージ研修支援Ⅱ」を有効活用し、学校全体として授業力向上、授業改善に取り組んでほしい。</li> </ul> <p>第3回(2/6)</p> <p>○エンパワメントスクール1期生の1年を振り返って</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校見学会において、モジュール授業を体験。30分授業は短く感じなかった。内容もわかりやすく良い授業であった。</li> <li>・最終的に、モジュール授業の成果を数値的に示して欲しい。 ⇒アンケートや学力診断テストで、お示しする。</li> <li>・学年独自の行事を積極的に実施し、キャリア教育では、中小企業家同友会との連携で初めての取り組みを行うなどしていることが、遅刻者数半減や行事参加率の上昇につながっていると感じる。</li> <li>・エンパワメントスクールのめざす形は？ ⇒『めざす学校像』『めざす生徒像』で示している理念を、具体的な形で示す。</li> </ul> <p>○平成27年・28年度学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パッケージ研修支援Ⅱ、授業アンケートの活用や授業見学後の取組みなどの授業改善、中小企業家同友会との連携によるキャリア教育などが成果と感じる。</li> <li>・パッケージ研修支援Ⅱは、来年度も実施するのか ⇒教育センターに応募しての単年度研修。今年度の成果を、来年度以降さらに充実させ、学校全体として授業力の向上につなげていく。</li> </ul> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の確保が急務。シラバスの工夫や学校の特色を出すことも重要。</li> <li>・大学では講義の冒頭10分間スピーチを取り入れている。課題を調べないとスピーチできないので、必然的に家庭学習が必要となる。</li> <li>・学校の教育活動全体を通じて、勉強することの大切さを説くことが必要。</li> </ul>
肯定的回	C S 生徒*61.1%	E S 生徒*69.5%					
	C S 保護者*73.7%	E S 保護者*84.8%					

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会で活躍するために必要な基礎学力が身につく、「わかる喜び」「学ぶ意欲」を喚起する授業の確立	(1)「基礎学力」「考える力」の定着をめざした授業改善に取り組む ア1年次国数英モジュール授業の充実  イ3年間を見据えた習熟度別学習の計画  ウICT機器の授業への効果的活用法の研究 エ「学習指導研究チーム」による授業改善の推進	(1) ア・国数英3教科を毎日1,2時間目に30分×3の授業とし、効率的に学力向上を図る。  イ・3年間を通じて、生徒一人ひとりに応じた学習を進められるよう、国数英3教科で習熟度別・進路希望別授業の計画を策定する。  ウ・ICT機器を活用した研究授業、相互の授業見学、ICT機器活用のための校内研修会を積極的に実施する。 エ・教科の枠を越えて組織された「学習指導研究チーム」で、「わかる授業」を実現させるための授業改善に取り組む。	(1) ア・授業アンケートの授業満足度(質問8,9)75%  イ・年内の計画完成。  ウ・学校教育自己診断におけるICT、情報関連項目満足度80% エ・チーム主催の研究授業ならびに授業後の研究協議を年回5回実施	ア・第1回授業アンケート結果 満足度(質問8,9)2.96:74%(○) ・第2回授業アンケート結果 満足度(質問8,9)3.05:76.2%(○) 今年度実施の「パッケージ研修支援Ⅱ」の成果を学校全体で共有し、次年度の授業改善・授業力向上につなげたい。 イ・3年間の習熟度別学習計画は策定済み。次年度、ES1期生、2期生の取組み内容を検証しながら、基礎学力定着を図る。(○)  ウ・学校教育自己診断満足度96.7%(◎) ・校内研修は、全体としては3回開催。(○) エ・教育センターの「パッケージ研修支援Ⅱ」を実施。全体研修、2回の研究授業ならびに全体研究協議実施により、学校組織としての授業改善、授業力向上の取組みが定着した。(◎)
2 興味・関心・進路希望に応じたキャリア教育の充実	(1)3年間を通じた『エンパワメントタイム』の計画策定  (2)『エンパワメントタイム』の効果的活用法の研究 ア外部人材を積極的に活用した、的確な進路選択能力の育成  イ学校全体として『エンパワメントタイム』の充実  (3)デュアルシステムの充実	(1)社会で活躍するために必要な力をつけるため、「自尊感情を高める」「コミュニケーション力をつける」「キャリア意識を身につける」「正解が一つでない課題に取り組む」をテーマにした3年間を通じての学習計画を策定する。  (2) ア「企業関係者」「地域人材」の方々を、エンパワメントタイムの講師に活用し、「本物に触れる授業」を実施し、キャリア教育の充実につなげる。  イエンパワメントタイムを計画的に運用できるようにガイダンス部、教務部、学年団担当者の連携により、1年次から卒業時を想定した年間キャリア教育を策定し学校全体で共有する。  (3)・受講生徒の増加と受け入れ事業所の拡充を図る。 ・デュアルシステムのキャリアアップナビ講座において、外部専門家の講話、生徒間の意見交換会、発表会を通じて、自分の考えを述べ他人の意見を聞き、思考力・表現力を養成する。併せて、進路決定力につなげる授業をめざす。	(1)年内の学習計画の完成  (2) ア・学校教育自己診断におけるキャリア教育項目の肯定率75%以上。  イ・年内の年間キャリア教育の策定。  (3)・次年度デュアルシステム受講希望者18人。(2)アに同じ。	(1)計画の骨子は完成済み 次年度、計画の実現に向け、校内体制の整備を図る。  (2) ア・前期デュアルを9月16日に実施。 学校教育自己診断ES1年生:70.4% CS2・3年生:72.5%(△) ・10月27日(火)、大阪府中小企業家同友会大阪北ブロックの会員(会社社長他事務局員)7名を招き、1年生担任団ならびに来年度1年生担任団とのキャリア支援授業事前研修会を実施。 ・12月3日(木)、中小企業家同友会会員社長さん34名の協力により、キャリア支援授業として「社長さんと話そう」を開催。 事後アンケートの生徒の肯定的回答率ほぼ100%(◎) イ・(1)のとおり。  (3)・大阪府中小企業家同友会との取組みによって、デュアルシステムへの協力企業が3社増加(◎)

## 府立箕面東高等学校

<p>3 生徒指導と相談体制の充実</p>	<p>(1)多様な生徒の学校定着と自己実現をはかる環境整備 ア 支援教育コーディネータによる支援教育計画の作成  イ 生徒の居場所活動による不登校防止  (2)学校に根付かせる生徒指導 ア 「果たすべき役割」の自覚と「規範意識」の育成 イ 学校への帰属意識と連帯感の育成</p>	<p>(1) ア・各学年に支援教育コーディネータを配置し、「高校生活支援カード」や「教育相談アンケート」を活用し、組織的に個別の教育支援計画を作成する。 イ・居場所活動の拠点「めいぶるカフェ」の機能を拡充し、居場所作りと個別相談活動を両輪とした、不登校・中退予防体制を確立する。  (2) ア・新入生には入学直後に宿泊研修を実施し、学校生活における基本的な生活習慣の定着を図る。  イ・生徒主体の学校行事の発展・拡充と部活動加入率を上昇させる。</p>	<p>(1) ア・個別の教育支援計画作成達成率90%。  イ・不登校率15%、中退率4%以下。  (2) ア・学校教育自己診断における規範意識肯定率70%以上ならびに授業アンケート自己肯定率70%。  イ・エンパワメント1期生の部活加入率50%。</p>	<p>(1) ア・現時点で達成率約60%。(△)  イ・不登校率、エンパワメント1期生1年4.3%(昨年度1年生13.0%) (◎)  (2) ア・入学直後の宿泊研修は、朝学、モデル授業のスムーズな開始、早期の生徒実態把握に大きな成果を収めた。(◎) ・学校教育自己診断ES1年生 : 77.7% CS2・3年生 : 79.3%(○) ・授業アンケート自己肯定率 ES1年生 : 84.0% CS2・3年生 : 83.5%(◎) イ・ES1期生学年独自の、球技大会、体育祭、文化祭での学年ダンス大会を実施。生徒主体の運営によって、連帯感が醸成された。(◎) ・エンパワメント1期生部活加入率 : 47%(○)</p>
<p>4 エンパワメントスクールの認知度を高めるための情報提供と広報活動の充実</p>	<p>(1)中学校への情報発信 ア 学校HPの充実 イ 中学校連携の発展・拡充 ウ 広報誌の刷新  (2)地域連携の充実 ア エンパワメントスクールの開催 イ 地域住民との連携強化</p>	<p>(1) ア・時期を得た更新とエンパワメントスクール独自の取り組みを広く発信していく。  イ・学校見学会の充実、中高連絡会の効果的開催、緊密な中学校訪問を行い、きめ細かい中高連携を進める。 ウ・エンパワメントスクールの教育内容を中心とした広報誌「みのひがレター」を、旧1地区中学校の3生全員に年2回配布する。  (2) ア・地元箕面市の施設を利用した「エンパワメントスクール展」を開催し、本校教育実践を広く府民に情報発信する。  イ・エンパワメントタイムの授業、文化部発表会、各種講座を地域住民に開放し、地域住民と生徒の交流機会を設定し、地域との連携強化を図っていく。</p>	<p>(1) ア・HPの最新ニュースの件数増ならびにアクセス数増。  イ・年間3回の学校見学会参加者数800名。(26年度591名) ウ  (2) ア・入場者数800名(26年度600名)をめざし、下記イの参加者数増につなげる。 イ・特にモデル授業については、授業公開を積極的に行い、中学校教員、地元府民に開放しエンパワメントスクールの認知度向上をめざす。</p>	<p>(1) ア・平日のアクセス数は常時200~300あり、昨年度のリニューアル後から順調に推移している。さらに、今年度は更新数が飛躍的に増加。(○)  イ・7月25日、11月14日、12月12日の3回開催済み。参加者数合計561名(△)  ウ・2回配布済み(○) 来年度は、内容を全面的に見直し刷新する。  (2) ア・11月22日(日)~28日(土)みのお市民活動センターで開催。 入場者数昨年並みの約600名(△)  イ・6月15日(月)~17日(水)、第1回授業公開を実施。中学校教員、中学生保護者、塾関係者、府教委関係者等、約100名が来校。(◎) ・第2回を11月9日(月)~11日(水)に実施。 期間中に「パッケージ研修支援Ⅱ」における研究授業を実施。1回目に加え、府立高校5校から教員15名が参加。(◎)</p>